

市民がライフステージに応じて ★学べる場所 ★学びたい場所 ★学びやすい場所 ★学びを活かせる場所

令和4年度以降

- 多様な学習機会の提供
- 開設コースの体系整理
- 新たな学習スタイルの導入（選択）
- 市民力を活かした講座運営

- 時代や社会の変化や新潟の地域性や課題に応じた学習の場
- 現コースの見直し/ライフステージに応じた講座構成
- 対面講義/遠隔講義/自宅講義等
- 市民（若い人）参画による講座企画・運営

【例】\*別紙参照

- ★基本講座（一般・新潟をテーマ）
  - ・運営委員より提案
  - ・大学連携
- ★市民企画講座（学生参画）
- ★特別講座（一般・子ども・高校生）

[学習スタイル]

- ・内容等に応じて対面講義・遠隔講義・自宅講義等

今後のにいがた市民大学の方向性（案）

作業3 駒づくり

にいがた市民大学 次の一手

- ★アイデア出し
  - 講座形態→一般分野&新潟をテーマにした分野
  - 回数の弾力化, 遠隔講義の導入
  - 子どもや若い人（高校生含む）向けの講座

つまりそれは

- ▶市民に学んでほしい講座の開設
- ▷学びのハードル降下
- ▶各世代が参加できる市民大学

作業2 棚卸（断捨離）

にいがた市民大学の今を見る

- ★財産（つなげていくもの）
  - 大人になって学べる、気軽な場
  - 新潟の過去・現在・未来を学べる
  - 学んだ人とのつながり
  - 市民が講座企画に参画できる
- ★荷物（見直していくもの）
  - 参加者が少なくなっている（受講者の一部固定化）
  - 若い人の参加・関わりが少ない
  - 他大学等との重複(講座の類似化)
  - 受講環境のハードル（対面・夜間等）

引き続き

- ▶市民の多様な学習機会を提供
- ▷新潟のことを学べる場の提供
- ▶受講後の自主グループ化→主体的に地域活動
- ▷市民提案講座

それならば

- ▶講座構成の見直し
- ▷若い人が参加したくなる講座・参画できる場の創出
- ▶講座テーマの工夫
- ▶オンライン講座の導入

作業1 妄想

にいがた市民大学の近未来像を描く

- ★いろんな人が受けやすい市民大学
  - ☆市民がつくる市民大学
- ★メリハリのある市民大学（年度ごとにテーマを設定する）
  - ☆新潟の地域課題に応じていく市民大学

そのために

- ▶受講者層の広がり
- ▷市民が関わる（関われる）市民大学
- ▶講座テーマの工夫
- ▷新潟のことを学べる市民大学